

科学研究費助成事業 平成28年度予算案の説明

〔 H28助成額：2,343億円【対前年度 25億円増】（※）
H28予算案：2,273億円【対前年度同】 〕

科研費はすべての研究活動の基盤となる「学術研究」を幅広く支援することにより、科学の発展の種をまき芽を育てる上で、大きな役割を有しています。平成28年度予算案においては、前年度より25億円増の助成額を確保するとともに新たな学問領域の創成や異分野融合につながる挑戦的な研究支援など科研費の改革・強化に取り組みます。

※平成23年度から一部種目について基金化を導入したことにより、予算額（基金分）には、翌年度以降に使用する研究費が含まれることとなったため、予算額が当該年度の助成額を表さなくなったことから、予算額と助成額を並記しています。

◆挑戦的な研究への支援の強化（「挑戦的萌芽研究」の見直し・発展）

○大胆な挑戦的研究を見出す総合審査方式・全分野展開

〈特徴〉

- ・既定の専門分野の枠にとらわれないアイデア・計画の斬新性を重視
- ・異分野の審査員による多角的なチェック

※平成28年度中に公募・審査を開始します。（交付は平成29年度から）

◆制度の基幹である基盤研究種目の助成水準確保

◆平成28年度新規採択より「特別推進研究」に導入されていた国庫債務負担行為をとりやめ補助金を交付

上記に加え、国際共同研究の加速に向けた取組、大規模研究種目の検証・改善、競争的研究費改革への対応などを並行して推進します。

新学術領域研究（研究領域提案型）の中間・事後評価について

平成27年12月8日に開催した科学研究費補助金審査部会において、新学術領域研究（研究領域提案型）20領域の中間評価、36領域の事後評価について審議した結果、以下のとおり決定されました。

詳細な内容については、下記の文部科学省科研費ホームページをご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/chukan-jigohyouka/1366600.htm

○新学術領域研究（研究領域提案型） 中間評価（対象20研究領域）

A+	研究領域の設定目的に照らして、期待以上の進展が認められる	3
A	研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの進展が認められる	14
A-	研究領域の設定目的に照らして、概ね期待どおりの進展が認められるが、一部に遅れが認められる	2
B	研究領域の設定目的に照らして研究が遅れており、今後一層の努力が必要である	1
C	研究領域の設定目的に照らして、研究成果が見込まれないため、研究費の減額又は助成の停止が適当である	該当なし

○新学術領域研究（研究領域提案型） 事後評価（対象36研究領域）

A+	研究領域の設定目的に照らして、期待以上の成果があった	5
A	研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの成果があった	22
A-	研究領域の設定目的に照らして、概ね期待どおりの成果があったが、一部に遅れが認められた	8
B	研究領域の設定目的に照らして、十分ではなかったが一応の成果があった	1
C	十分な成果があったとは言い難い	該当なし

「我が国における学術研究課題の最前線（平成27年度）」を公開

日本学術振興会及び文部科学省において審査を行った研究種目のうち、研究費の規模が大きく評価が高い研究を支援するもので、一人又は比較的少数の研究者により研究が実施される「特別推進研究」や「基盤研究（S）」、複数の研究者グループにより研究が実施される「新学術領域研究（研究領域提案型）」の新規採択研究課題の研究概要等を取りまとめた資料を公開しています。

以下より、ダウンロード可能となっておりますので、ご利用ください。

http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/30_front/

